

# 自費出版顛末記

2022年7月22日

F47 大鹿 秀正

## はじめに

- ・2020年5月に「駅伝と仕事―トヨタ社内駅伝ラストランの奇跡」(下記写真)を自費出版した。
  - ・皆さんに伝えたいことは、「文才がない者でも本が書けてしまった」という一言に尽きる。
- 出版構想時には、ジャンルとして、「小説」も頭をかすめた。だが、最終的には「自分史」になった。「文は人なり」というのも実感である。自分の体験は自分にしか書けないと同時に、人と人との出会いとご縁について触れることになる。登場人物をNさんなどイニシャルにするのは最後まで迷った。有名人でも勝手に実名は出せないと思ったからだ。国民栄誉賞の高橋尚子さんには「いびがわマラソン」で、出版について了解もらった。プロランナー川内優輝選手には上り坂での走り方を教えてもらってファンになった。「失敗を恐れない勇気」の言葉に感化されて(笑)、ご本人の名前を“勇”輝と間違える大失敗。20年8月に駅伝メンバーに指摘されるまで気がつかなかった。その時点から正誤表を本につけた。- ・面識のない30代の読者から「どこのページを開いても役立ちそうな言葉ばかりなので、これから愛読書にします」というお手紙をいただいた。これはホントに嬉しい出来事だった。

## 出版のきっかけ

- ・2015年1月付けで退職するときに、駅伝チームの有志30人に「駅伝と仕事」というタイトルで特別講演を実施した。
- ・そのすぐ後に、当時トヨタの取締役会長でプリウス開発者の内山田竹志さんに退職のご挨拶をした。そのとき、講演資料をお見せした。「面白いから本にして出したらどうだ」と背中を押していただき、その気になった。
- ・資料内容は、会社生活40年の振り返り、会社生活と駅伝が同じと思える理由。駅伝チームの経験談ノウハウ。最後のまとめがアイウエオ。(ア)有難いとは難があること(イ)いいところを見つける 周りと自分の(ウ)運は自分で動かせるし、運ぶもの(エ)笑顔は人と人との縁をつくる(オ)想いは実現する

## 計測会との関係

- ・2020年5月、当時計測会会長だった守田賢一さん(F47)が、学生に計測会賞授与する際に、この本をPRしてくれた。そのあと、「読んでみたい読者は大鹿さんまで連絡ください」と会員に呼び掛けてもらう。すぐにメールなどで反応があり、「どうしたら注文できますか?」という有難い問い合わせもあった。
  - ・計測会で本をまっさきを買ってくれたのが、計測会役員だった。守田さん、大鑄史男先生(F49)、寺倉修さん(F50)。
  - ・ごきそ計測会(トヨタ職域現役&OBで100名を超える)には幹事をお願いして希望者20名に、本を配ってもらった。
- 1回生(F39)の石寺孝先輩(F39)は、ご近所だったので、ご自宅まで本をお届けした。次の日にはしっかり読んでいただき、「すぐに読めた」という感想を頂戴して感激した。石寺さんはごきそ計測会でも一番の有名人。ごきそ計測会の2021年新人からは「人として大切なことが記されており、ハッとさせられる内容が幾つも・・・」という嬉しい手紙をもらった。

・計測工学科の恩師後藤秀雄先生の「最適化」とトヨタの「エンジン制御」が**産学連携プロジェクトの走りとして自動車技術会で表彰された**。本で触れたこのエピソードを昨年 12 月「産業論」講義で披露したら、学生から反響が大きかった。

・70 歳を過ぎてから、「産業論」講義ができるきっかけとなったのも計測会 種村眞幸先生(F56)と「駅伝と仕事」だった。計測会の関係者の皆さんには感謝しかない。

## 出版に関連するあれこれ

・出版に当たり、「自分はこの本を誰に一番読んでもらいたいかな？」を自問自答した。答えは「後輩の学生」だった。

コロナ禍、東京オリンピック延期など予想外もいくつかあったが、次の2つだけは変わらなかった。

- 1) 駅伝を例にして、**スポーツと仕事の共通点を考えることは、人生を考えることにもなる。**
- 2) 若い人にとってガイドブックになるように、**駅伝と会社生活の失敗談**について語りたい。

・第 1 章の「私の社内駅伝の 40 年史」は、1975 年 4 月からの 40 年間の駅伝の体験と感想を生々しく書いた。新入社員時代や、東富士研究所時代などのできごとは当時の日記や手帳を読み返しながらか参考にした。3回目ラストランまで、実は**自慢にならない失敗談ばかりだ**。

・第 2 章は、「後輩に伝えたいアイウエオ作文・五十音」とした。

駅伝コース攻略のポイントなどがアイウエオ作文になっている。ア行からワ行までの五十音から始まるキーワードにエピソードやノウハウなどを追加した。辞典と同じだ。だからどこから読んでもストーリーは 1 話完結。東京オリンピック、読書マラソンなどコラムも付けた。

元 F1 レーサー片山右京さんとは、2003 年 10 月豊田スタジアムリレーマラソンで出会った。その時からのご縁で、出版を応援してもらった。右京さんの話は最終(ン)のページに載せた。右京さん、内山田さんほかお忙しい人ほど、読後感想文のレスポンスが速かった！

・「駅伝と仕事」というタイトルに合わせて、スポーツと仕事を対比して考えるのはとても興味深かった。

スポーツにも仕事にも、「**楽あれば苦あり**」、「**過ぎたるは及ばざるがごとし**」などの格言がピッタリするシーンはたくさんある。

・原稿執筆中は、「テレビや新聞に少しでも関係しそうなネタはないか」といつもよりアンテナを張っていた。テレビで放映された、マツコデラックスの東富士研究所紹介がその実例。トヨタタイムズは当時まだ無かった。

・「もらった本は読まないから、100 円でもいいから売った方がいい」という出版社からの助言あり。

編集者からは「千円の価値はある」とおだてられて、本に頒価 1000 円と明記。

・発行日ほぼ予定通り、我が家に契約の 300 冊が段ボールで届いた。それからはずっと、郵便局通いの毎日となった。

・2022 年 7 月現在 100 名近くのかたから感想をもらうことができた。

「面白かったけど 1000 円の価値はないね(笑)」という率直な感想もあり。

出版への挑戦は成功だった。

## 野球との縁

・駅伝に関連して、マラソンのエピソードが追加されているだけでなく、本の随所に野球のエピソードが出てくる。駅伝以外に自ら進んでやったスポーツが野球だったからだ。

・令和元年9月総会で中日ドラゴンズ伝説のスカウト法元英明さんに野球界のドラマを講演してもらった。

「心:メンタル」「技:フォーム」「体:柔らかさ」のエピソードは2021年12月の産業論でも紹介。

2022年5月になって、名工大硬式野球部が3部リーグで優勝という嬉しいニュースが飛び込んできた。

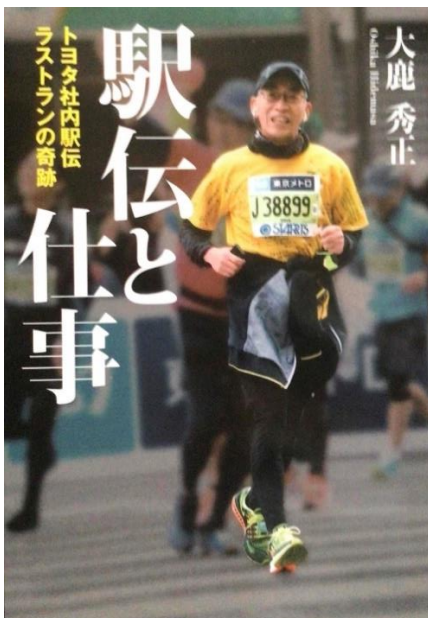
法元さんに声をおかけして、瑞穂野球場での2部入れ替え戦の名産大戦を、法元さんと並んで名工大応援席から応援。今でも高校野球から社会人野球のドラフト候補名選手を見るためにどこでも出かける法元さん。セカンド森田選手のプレイについて「責任感が強い選手だ」と解説してもらった。森田選手(計測会新会員)は、3部リーグ優勝の優秀打者賞を獲ったと後に知った。元チーフスカウト法元さんの慧眼に驚く。

・話は続く。6月26日千種グラウンドにて守田さんと二人で、名工大硬式野球部長加藤禎人先生(D61)のノックを受けた。トスバッティングもやらせてもらった。硬式野球部をさらに応援しようという気持ちを強くした。

## おわりに

自費出版の経験により、人の輪が広がりました。計測会(名古屋工業会)関係者の皆さんとの出会いとご縁に感謝します。もしこの寄稿文を読まれて、「自分も出版に挑戦しよう」という人がいらっしやったら幸いです。本という形でなくても、パソコンでもスマホでも思ったことを入力して、まとめて整理見直しするだけでもいいのではないのでしょうか。よろしく願いいたします。

(卒業50周年 計測会顧問)



2020年5月20日 発行

(写真は2015年2月22日東京マラソン)